

ソイルペイント HiLaRi

施工ガイド



ソイルペイント HiLaRi は
土と天然顔料が生み出すペイントです。

HiLaRi（ひらり）はラテン語で陽気な・朗らかなという意味。
土そのものの質感で笑顔あふれる快適な空間をご提供します。

1. 準備するもの

必要道具

- ハケ、ローラー（塗るもの）
- バケット、カートリッジ、網（塗料を入れるもの）
- マスキングテープ、マスキ（養生するもの）
 - コーキングボンド（オプション：際の塗りや穴埋めに使用します）
 - シーラー（オプション：吸込みのある素材やヤニで出てくる素材に使用します）



- 新聞紙（オプション：マスキで覆いきれない場所に敷きます）
- はさみ、カッター（オプション：マスキなどを切るもの）
- 濡れたタオル（オプション：汚れを拭きとります）

事前準備

- ・ 塗装場所を確保：家具などを動かします。
- ・ お掃除：壁に汚れがついていることがあるので、水拭き、汚れが強い場合は中性洗剤を薄めた液で清掃します。巾木の上のほこりなどを取ります。

服装

- ・ 汚れてもいい服装（靴下も汚れます）
- ・ 天井を塗る場合は保護用のメガネ、帽子や頭を覆う布など

2. 塗り方手順

A. 下地処理

- 石膏ボードや合板の場合：

石膏ボードや合板の継ぎ目に一般塗装用のパテ処理が必要となります。メッシュテープを貼り、下パテ材塗り、乾燥、サンドペーパーで研磨、同様に上パテ材塗り、乾燥、研サンドペーパーで研磨し下地を整えます。ラワン合板など吸い込みがある場合や、ヤニが出てくる際には、一般市販のシーラーを各用途により選び使用してください。



- 壁紙（ビニールクロス）の場合
壁紙（クロス）の上に直接塗装できます。クロスの剥がれなどはボンドで付けるなどし、予め補修を完了させておいてください。継ぎ目やピン穴などはコーキング材などで埋めておいてください。



ビニールクロスを剥がす場合は、裏紙まで剥がしてください。裏紙が残っているとふやけて仕上げに影響することがあります。

- 土壁、漆喰、金属（防火扉など）、プラスチック（ポリプロピレンを除く）の上にも塗装可能です。吸い込みを抑えるため、素材により一般市販のシーラーを、塗装前に予め塗っておいてください。



オススメ！

合板・ベニヤなどの木部や、モルタル・漆喰などの壁上に塗装する場合は塗料を吸い込みすぎてしまったり、ヤニが下地から出てくる場合があります。このような素材の時は、下塗り材としてシーラーを塗ると綺麗に仕上がります。

下地処理用のシーラーには、下地をシーリングし（蓋をする）、塗料が必要以上に下地へ浸透するのを抑えまた壁の下地と塗料の密着性を高めます。

必ず試し塗りをしてみて、綺麗に塗れる状態か確認してから塗ってみてください。



B. 養生

- マスキングテープで塗る、塗らないラインを作ります。マスキングテープはウキがないよう押さえてください。
- マスキングテープの上にマスキャーを貼って、ビニール部分を引出します。
- マスキャーの長さが足りない場合は新聞紙や布等で床や壁を覆ってください。

オススメ！

塗装する側のマスキングテープと、塗装する壁面の境にコーキング剤を塗っていきます。

その後、指でなぞって必要のないコーキング剤を落としながらマスキングとの隙間を埋めていきます。指に付いたコーキング剤は濡れたタオルなどで簡単に拭き取れます。

余分なコーキング剤を取り終えたらしっかりと乾かします。乾くとゴムのような触り心地になります。乾燥後は、いつものように塗装していきます。これだけで職人が塗った後のようなきれいな仕上がりになります。



コーキング処理なし



コーキングあり



C. いよいよ塗装です

(塗装)

- 刷毛で隙部分を塗ります、塗料が溜まらない様にのばします。

(ダメ込み塗り)



- ローラーに塗料をしっかりふくませ、余分な塗料は網の上で軽くごろがし落としてください。1回ローラーに含ませたら1平米ぐらいぬっていきます。
- 細いWを描くイメージで肩の力をぬいて塗り広げます。塗料が多くついた箇所は伸ばします。ハケでぬった部分は厚塗りになりすぎないように、軽くローラーを転がします。



- 全体が塗れたら2時間程度乾かします。

（塗装 2 回目塗り）

- 2 回目を塗る前に塗装面を確認してください。薄付きのところやきれいに塗れていないところは 2 回目で丁寧に塗っていきます。
- 1 回目と同様に W を描くイメージで塗っていきます。

（養生を剥がす）

- 2 回目の塗装が終わってから 30 分～1 時間ほどしてから養生を剥がします（塗料が完全に乾く前が剥がすタイミングです）乾燥には換気が必要です。

注意事項

- 気温が氷点下以下の場合は塗装施工を行わないでください。
- 施工前にはソイルペイント HiLaRi をよくかき混ぜてください。
- 塗装の際、目や口などに入った場合は、早めに洗い流してください。
- 基本は 2 度塗りです。1 度目に塗った面の塗り残し、ムラなどを探し、2 度目の塗りで修正しながら全体的に均等に塗ります。
- ソイルペイント HiLaRi は比重が 1.5kg/L と通常の水性ペイントよりも重く、最初はローラーで伸ばしにくく感じるかもしれませんが、慣れてくるとよく伸びます。
- 塗りにくいと感じられる場合には、1 度塗り目に限り 5%程、水で希釈することができます。2 度塗り目は希釈することが出来ません。
- ゆっくりと丁寧に塗ります。隠蔽性（下地を隠す度合い）が高いので、同じ場所を何度も塗る必要はありません。
- 塗布量目安は約 100ml/m²（2 度塗りが完了した時点で 200ml/m²）です。
- 1 度塗り目の乾燥時間帯に、下地が透けるように見える場合がありますが、乾燥後はしっかりと隠蔽します。乾燥まで焦らずにお待ちください。
- 一度にたくさん厚く塗りすぎると、表面にひびが入りますので、厚塗りせず、薄く伸ばしてご使用ください。
- 2 度目の塗装完了後の標準乾燥時間は約 6 時間です。

D. 廃棄・保管

- 使用した道具は水で洗浄します。粘土なので下水を汚染しません。
- 残ったソイルペイント HiLaRi は乾燥させ、各地法令に従い廃棄してください。
- 塗料が多く残った場合は、暗所に密封して保管しお早めにご使用ください。
- ソイルペイント HiLaRi の保存期間は希釈なしの状態が開封後 1 年、未開封 2 年です。低温・暗所で保存ください。使用する場合はストッキングネットなどの目の細かいもの濾してご使用ください。

3. 補修・メンテナンスについて

- ソイルペイント HiLaRi のアク・シミ・汚れ処理

塗装した壁・天井の部分的な汚れの処理として水拭きは適していません。汚れは柔らかい消しゴムかメラミンスポンジで軽くこすります。汚れのひどい場合には柔らかい布に中性洗剤をつけ、軽くたたくようにして落とします。落ちない場合は表面を再度塗る必要が有ります。

- 塗り直し手順

汚れが広範囲にある場合には、塗り直しが必要です。汚れている箇所を軽く乾拭き後、ソイルペイント HiLaRi を再度塗ります。一度塗りで結構です。

- クラック（ひび）が起きた場合の補修方法

クラック部分をなぞるように、ヘラまたは指で、木工用ボンドもしくはコーキング材を入れます。入隅など、クラックの場所が石膏ボードでなくコーキング材の上の場合は、カッター等でコーキング材を剥がした後、上記と同じく新たにコーキング材を入れます。

コーキング材を乾燥させます。ソイルペイント HiLaRi を塗り完了です。クラックが広範囲にある場合、クラック部分をヤスリ（300 番～400 番）で平らに削り、パテ材で埋めます。

- ソイルペイント HiLaRi を数年経過して塗る場合には、未補修部分とのカラー差異を避けるため、塗装範囲を全面でなく、柱や、他の壁、天井などで区切られている適度な範囲に絞り塗ってください。

- 壁埋め修復作業

壁紙が剥がれていたり、破れている場合、または壁紙と壁紙の隙間が空いている場合は、木工用ボンドもしくはコーキングボンドで隙間を埋めます。ボンドを塗る際には仕上げに指で押さえ、面を平にしてください。穴が 1cm を超えて大きい場合には、DIY 用の穴埋め用パテ材もあります。穴埋め処理はボンドの乾く時間が必要ですので、ペイント塗装の前日までにしておく必要があります。